

最新の言語研究と教育現場の事例から考える

[illegible]

定員:250名

主催:一般財団法人 言語交流研究所 ヒッポファミリークラブ



Suzanne Flynn スザンヌ・フリン
マサチューセッツ工科大学(MIT)教授 言語学/多言語獲得研究

幼少の頃から母語以外のことばを獲得する人間の能力について興味をもち、1983年コーネル大学にて学位を取得。現在、米国マサチューセッツ工科大学にて言語学および多言語獲得研究の第一人者として活躍中。

ノーム・チョムスキー博士(1928～)の学説として有名な「生成文法理論」も含め、40年以上にわたり人間の言語獲得の秘密や多言語のもたらす効果について研究。その結果、「多言語を話すことは人間にとって自然である」「人間の言語獲得能力には、年齢による臨界期はない」「2カ国語以上話す子どもたちは抽象概念に強く、想像力も豊か」などユニークな言語理論を発表している。

◆研究および事例報告

スピーカー紹介

酒井 邦嘉

東京大学大学院総合文化研究科 教授

1964年生まれ。東京大学理学部物理学科卒業。同大学大学院理学系研究科博士課程修了。理学博士。専門は言語脳科学。

言語に規則があるのは、人間が言語を規則的につくったためではなく、言語が自然法則に従っているからである。このようなチョムスキーの言語生得説は厳しい賛否を巻き起こしてきたが、最近の脳科学は、この主張を裏付けようとしている。実験の積み重ねとMRI技術の向上によって、脳機能の分析は飛躍的な進歩を遂げた。こうした背景の中で、失語症や手話の研究も交えて、言語という究極の難問に脳科学の視点から挑んでいる。著書:『言語の脳科学』(中公新書)、他多数。



大和田 康之

レッドランズ大学名誉教授/EngageAsia財団理事

1934年生まれ。国際基督教大学(ICU)1期生卒業。米コロンビア大学にて博士号を取得。満州で生まれ、白系ロシア、イタリアの子どもたちと幼少期を過ごす。ICUでは学長補佐を務めると同時に教鞭もとるなど創設期に貢献をした。現在は米国在住。

これからを担う真のリーダーシップに必要なのは「多言語を話す」というスタンスである。多言語を話すということは、「違ったことば、価値観を持った人を受入れる」ということ、「寛容」ということであり、それは自分を人間としてより豊かになるということである。と、多言語を学ぶ本質的な意味について述べている。



森田 明彦

尚綱学院大学 現代社会学科教授

1958年生まれ。東北大学文学部卒。博士(学術、早稲田大学)。外務省、国際連合開発計画、財団法人日本ユニセフ協会(広報室長)、東京工業大学(特任教授)等を経て、2010年4月より尚綱学院大学現代社会学科教授。

「世界最先端の技術で、世界最高の教育を」「どんな国の、どんな言葉を使う人にも深い共感と開かれた心で向き合える人を育てる」をモットーとする。近年では、言語交流研究所(ヒッポファミリークラブ)の協力のもと、多言語体験授業などにも取り組んでいる。

著書:『人権をひらくーチャールズ・テイラーとの対話』(藤原書店)



鈴木 堅史

(一財)言語交流研究所 代表理事/LEX America理事

1944年生まれ。早稲田大学政治経済学部卒。

1981年、多言語活動を提唱した榊原陽氏とともに、言語交流研究所ヒッポファミリークラブの創設に参画。1987年より理事。1998年から2002年、アメリカに渡り、ニューヨーク、ボストン、メキシコなどで多言語活動の実践を世界に展開。その後、多言語プレゼンテーション大会(LMP)などの新規プロジェクトを積極的に推進し、国内外から大きな反響を得た。近年では酒井邦嘉教授(東京大学)、スザンヌ・フリン教授(MIT)と、世界初の「多言語習得するメカニズムについて」の共同研究を2016年春から開始させた。



他、教育現場に携わる教員の方々の登壇も予定しております。

言語交流研究所
ヒッポファミリークラブとは

国や人種の違いを越えて、どんなことばを話す人ともコミュニケーションができるようになったら・・・。

そんな思いから1981年、多言語(いくつものことば)を、自然習得(母語の習得プロセス)するヒッポファミリークラブは誕生しました。

本来、人間誰もが「どんなことばでも」「いくつでも」話せるようになる自然の力を持っています。

ヒッポファミリークラブは、多言語の環境の中で育った赤ちゃんが、母語を習得するのと同じように、家族や仲間たちと一緒に、楽しく多言語を身につけていきます。



言語交流研究所ヒッポファミリークラブ 社会貢献活動

◆東大・MIT・言語交流研究所共同研究プロジェクト実施中

スザンヌ・フリン教授(MIT)、酒井邦嘉教授(東京大学)、言語交流研究所が多言語習得のメカニズムと効果を脳科学的に調査するプロジェクトを2016年から開始。

◆尚綱学院大学にて「多言語コミュニケーション」講義を実施中

宮城県・尚綱学院大学にて、現代社会学科の森田明彦教授のもと、2015年より、多言語体験授業を特別講義として実施中。2019年からは、「多言語コミュニケーション」が正式科目として導入されます。

◆鎌倉ユネスコ協会主催のSDGsリレートーク&ディスカッションに発表参加。

鎌倉ユネスコ協会「SDGsみらい塾」開塾記念シンポジウム内のSDGsリレートークで登壇。

◆慶応義塾大学にて「多言語コミュニケーション実践」特別講義を実施

藤沢湘南キャンパスにて、2018年に実施。複数の知らない言語を真似する体験が、赤ちゃんの言語獲得を体験する言語社会化を体験する機会となりました。

◆ESD環境プログラムの演習協力

2018年3月に「高尾100年の森」で開催された、環境省主催の「教職員・地域環境活動リーダーのための環境教育実践力強化研修」にて、体験活動プログラム演習「英語や多言語で自然や世界とつながろう!」に協力。

◆多言語プレゼンテーション大会を実施

2015年より、世界各国の若者たちが「多言語体験を通して見つけたこと」について3言語以上で発信する大会を毎年開催。これまでに延べ161組169名の若者が参加しています。